

上益城郡教科等研究会（小学校外国語部会）

令和6年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

主体的に自分の考えや思いを伝え、
楽しくコミュニケーションを図ろうとする児童の育成

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日 6/7	人数 28人	場所 高木小	期日 8/5	場所 益城中	小中合 同研修	期日 11/12	場所 御船小	授業者 稲葉由夏 教諭	期日 1/23	場所 広安小	授業者 作田美来 教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① 研究テーマと研究の視点の設定及び研究組織づくり（期日：令和6年6月7日 場所：高木小学校）

ア 研究テーマと研究の視点の設定

今年度の研究テーマを「主体的に自分の考えや思いを伝え、楽しくコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」と設定した。そして、研究テーマに掲げる子どもの姿を実現するための授業づくりの視点を設定し、授業実践を行うこととした。

＜研究テーマに掲げる子どもの姿を目指すための授業づくりの視点＞
(1) コミュニケーションへの興味・関心や意欲を高める単元の学習課題の設定
(2) 外国語に十分慣れ親しんだり、知識・技能を定着させたりする活動の充実
※「音声から文字へ」を意識
(3) 言語活動の充実

② 授業づくり研修（期日：令和6年8月5日 場所：小坂小学校）

夏季休業中の期間に、小中合同で研修を行った。研修では、まず熊本県教育センターの栗原指導主事から講話をいただき、その後に、中学校区単位で情報共有を行った。小中合同の研修が開催できたことで、小学校と中学校それぞれが、互いの英語授業や取組について理解を深める良い機会となった。

③ 外国語活動の授業実践（期日：令和6年11月12日 場所：御船小学校）

第6学年「Where is it from?」の授業実践を行った。「私のものはどこから？クイズ大会」という単元のゴールに向かって児童が「わくわく」するような単元デザインがなされていた。授業では、児童が単元のゴールに向かって意欲的に英語でやり取りをする姿が見られた。授業研究会では、成果と課題を出し合い、改善策までを話し合うことができ、学びの多い研修になった。

④ 外国科の授業実践（期日：令和7年1月23日 場所：広安小学校）

第3学年「What's this?」の授業実践を行った。授業では、「3ヒントクイズ大会をしよう」という単元のゴールに向かって、児童が意欲的にやり取りをする姿見られた。チャンツや歌、主活動のどれにおいても、音声やリズム、ジェスチャーを強く意識して授業が進められており、本研究テーマに迫る学びの多い研修になった。

(2) 成果と課題（成果○ ▲課題）

- 授業づくりの視点を明確にしたことで、授業実践の際に、それらを意識した指導の工夫がなされるようになった。また、事前研にも多くの先生方の参加があり、充実した事前研となった。
- 「本物だからこそやる気になる」というアイデアがたくさんつまった研究授業で、学び多い研修ができた。6年生の実践では、自分の本当に持っている持ち物を写真で撮ったものをクイズにするし、さらに、ZOOMで他校とやり取りするという工夫。3年生の実践では、校長先生にクイズを出すという工夫があり、どちらの実践も児童の学ぶ意欲を高めるのに大変効果的であった。
- 事後研究会でも、活発に意見が出され、非常に質の高い意見ばかりで、授業者にとっても部会員にとっても学びの多い研究会となった。特に、以前から課題だった「音声から文字へ」も非常に意識されており、教師の意識の変容は、上益城の英語教育の向上につながった。
- ▲ 夏季研修を、中学校と合同でできたことは良かったが、地域間や小学校中学校間でも外国語科の授業づくりについては、様々な実態や教師の意識の差があることが明らかとなった。外国語の授業づくりについて学び、さらに理解を深めるためにも、夏季研修の内容をさらに工夫していく必要がある。